

地場開発商品の展示とPR：地酒、珍味が好評

八 戸 市 六 日 町 商 店 街 振 興 組 合

機関名	八戸市六日町商店街振興組合			
所在地	青森県八戸市六日町10 いわとくパルコ内			
電話番号	0 1 7 8 - 4 6 - 4 6 5 0			
地域概要	(1)管内人口	24万5千人	(2)管内商店街数	- 商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	108商店
	(3)空店舗率	5%	(4)大型店空き店舗数	0店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 活性化対策事業

平成13年度に開発した新商品のPRを町内に設置する展示コーナー及びインターネット等を通じて実施

総事業費

5,007千円

【事業実施内容】

1. 背景

青森県八戸市は、青森県の南東部に位置する、台地と平野がなだらかに広がる地勢を持つ、人口約24万5千人の特例市である。

八戸市六日町商店街振興組合は八戸市内4つの商店街振興組合の中では、一番歴史が浅く、約10年の若い組合である。任意団体時代から、商店街と個店の魅力創出のために、毎年6月に開催している「ナイトオリエンテーリング」イベントなどを開催し、好評を博してきた。

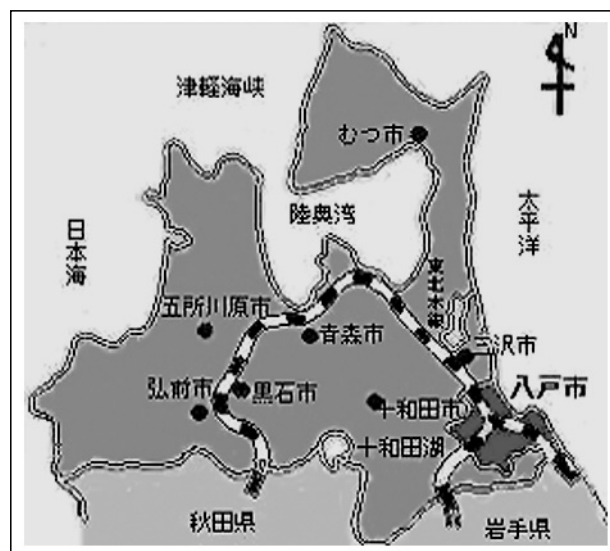
しかし、六日町でも工業の衰退、大型店の出店や人口流出などによりもたらされる商店街の活力低下は免れていない。

このような状況を受け、組合員の販売促進のための新商品開発を目的とした「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト」を商店街活性化事業として平成13年度から実施することとした。

「魚」「海」をキーワードとして、以下の取組みが実施された。

(1) はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会

学識経験者、専門家、消費者および六日町商店街振興組合の組合員により選出された28名



の委員にて「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会」を設置した。

(2) はちのへ六日町ものづくりプロジェクト

委員会での商品開発の検討の結果、「魚」をモチーフにしたガラス工芸品、日本酒「海のささやき」、イカの蒲鉾「いかのささやき」などの新商品開発が進められた。

(3) ま・さ・か・なハウス

商店街区にある空きテナントを活用して開発した新商品の試作品を展示、アンケートを実施することで消費者ニーズを調査し、結果を商品開発にフィードバックするために、ま・さ・か・なハウスをオープンした。



ホームページ「ま・さ・か・なページ」

(4) ホームページの開設

インターネットにより試作品に関するアンケート調査を実施することを目的に、「ま・さ・か・なページ」を開設した。このページでは、当事業に関する講演会、パネルディスカッション、委員会の内容を一般に公開するとともにTシャツのデザインに関するアンケートを実施した。

2. 平成14年度事業の目的と内容

平成13年度に引き続き、平成14年度には、以下の事業を実施した。

(1) 事業目的

- ①商店街の特色を生かして、観光客や一般消費者をターゲットに「魚」「祭り」などのテーマから開発された商店街のオリジナル新商品を普及宣伝する。
- ②商店街区にある空き店舗を活用して、開発した新商品を展示しPRする。展示コーナー

八戸市六日町商店街振興組合

内に水槽を設置し、魚の町八戸のPRや魚に関する開発商品のイメージアップをはかると同時に商店街の交流拠点とする。

- ③展示コーナーでの聞き取り調査やインターネット等により試作品に関するアンケート調査等を実施する。結果は商品開発にフィードバックするとともに、報告書にとりまとめる。

(2) 事業内容

- ①推進委員会の開催：地元大学より学識経験者2名を招いて、推進委員会を4回開催した。
- ②試作商品展示コーナー「ま・さ・か・なハウス」での試作商品の展示（期間中）試食（都合3回）とアンケート調査等
- ・イカの蒲鉾「イカのささやき」研究
 - ・市民参加による日本酒の醸造

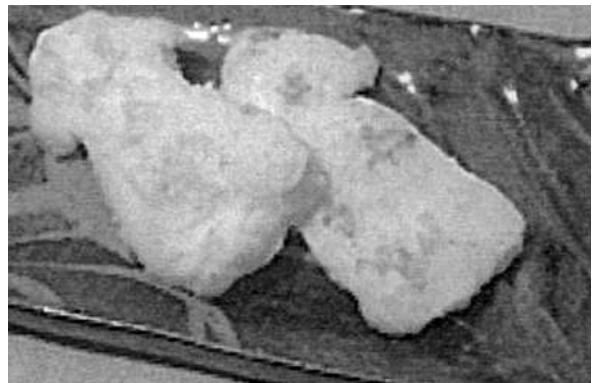


「ま・さ・か・なハウス」

【「ま・さ・か・なハウス」来場者数（平成14年4月～15年3月）】

営業日数	来場者数	男性	女性	子供
352日	2,430人	947	1,219	264

- ③試作商品展示コーナー「ま・さ・か・なハウス」での水槽による魚介類の生きた展示
- ④新聞広告（7月、1月）パンフレット（1回）による試作商品のPR
- ⑤インターネット通販サイトによる商品の販売動向調査
- ⑥物産展等への出店（10月9日～10日）による販売動向調査
- ⑦「八戸屋台村・みろく横町」への協力支援（売上分析等）



「イカのささやき」

【効 果】

- (1) 商品開発では地酒等が順調に売上を伸ばしており、組合員にメリットがでてきた。委員会での提言から地元主導の屋台村が全国規模でNo.1となり、非常に街のPRに貢献している。
- (2) 現在（平成16年2月時点）も、地酒は継続している。また、将来、商品化したいと考えているものもあり、更なる発展が考えられる。

【課題・反省点】

- (1) 地元企業が、そのノウハウをなかなか教えてくれない。街ぐるみでの事業であるが、協力できかねている会社もあり、一概に成功とはいえないが、できる人・企業で何とかやっているのが現状である。
- (2) 今は、街づくりはソフトの時代。ハードにお金を使っても大変で、どうしたらできるかについて知恵を出し合えるよう、人の力を組織化することで時代にあった事業が出来るような支援を行政に依頼したい。

【教訓】

やはり人である。事務局職員とやる気のある人、行政を巻き込み、専門職の意見をまとめあげることができれば、たいしてお金を使わなくとも事業化はできると思う。

【関連URL】

八戸市六日町商店街振興組合 <http://www.masakana.jp/>



地酒「うみのささやき」